



デフリンピック 日本選手団について



DEAFLYMPICS

デフリンピックとは

DEAFLYMPICS

「デフリンピック (Deaflympics)」は、ろう者のオリンピックとして、夏季大会は1924年にフランスで、冬季大会は1949年にオーストリアで初めて開催されました。※パラリンピックは1960年から開催。

障害当事者であるろう者自身が運営をする、ろう者のための国際的なスポーツ大会であり、競技環境に視覚的な情報保障がなされています。

また参加者が国際手話によるコミュニケーションで友好を深められるところに大きな特徴があります。

デフリンピックの運営組織

デフリンピックは、当初は「国際ろう者競技大会」、1967年には「世界ろう者競技大会」と名称変更しましたが、2001年に国際オリンピック委員会 (IOC)の公認を受け、「デフリンピック」となりました。なお、パラリンピックやスペシャルオリンピックも同様です。

デフリンピックを運営する組織は、国際ろう者スポーツ委員会 (※) で、1924年の設立以来、デフリンピックやろう者世界選手権大会の開催、そして各国のろう者スポーツの振興など、着実な取り組みを続けています。現在の加盟国は日本も含めて104カ国です。

※ International Committee of Sports for the Deaf)

デフリンピックへの参加資格

デフリンピックへの参加資格は、補聴器や人工内耳等はずした裸耳状態で、聴力損失が55デシベルを超えている聴覚障害者であり、各国のろう者スポーツ協会に登録している者とされています。

また、全ての選手が耳の聞こえない立場でプレーするという公平性の観点により、競技会場に入ったら練習や試合中は、補聴器等を装着することは禁止されています。



全選手が補聴器
等外なしでプレーしている
ことを確認し、聞こえない
状態であることを証明する
必要がある

デフリンピックの視覚的に保障された競技環境

デフリンピックの競技ルールはオリンピック競技にほぼ準じています。しかし、聴覚障害者はピストルスターターの音や審判の合図が聞こえません。

そのため、デフリンピックでは競技に必要な音声情報やコミュニケーションの全てが、光や国際手話などにより、視覚的に保障された競技環境が構築されています。デフリンピックの独創性がそこにあります。

なお、国際パラリンピック委員会が発足したときには、国際ろう者スポーツ委員会も加盟しましたが、上記のデフリンピックの独創性やリハビリ重視と競技性重視の違いにより、後に組織を離れました。

競技環境の例：水泳競技 陸上競技



ピストルスターターの代わりに光でスタートを知らせるスタートランプを使っています



競技環境の例：バスケットボール競技



ゴールのバックボードが光り、視覚的に審判の注意が分かるようになっています

競技環境の例：手話通訳



競技の際には、監督や選手の指示を聞き取り、手話で説明を行います



第23回夏季デフリンピック サムスン2017

第23回夏季デフリンピック競技大会は2017年7月18日から30日までの期間で、トルコ・サムスンにおいて開催されます。

日本からは陸上、バドミントン、サッカー、空手、卓球、ビーチバレーボール、水泳、テニス、バレーボール、サイクリング、マウンテンバイクの11競技に参加する予定となっています。



大会概要

開催国・都市	トルコ共和国・サムスン
運営主体	国際ろう者スポーツ委員会 第23回夏季デフリンピック競技大会組織委員会
参加国・地域数	73ヶ国・地域 (予定)
参加人数	約3,000名
実施競技	陸上 バドミントン バスケケットボール ビーチバレーボール ボウリング サイクリング サッカー ゴルフ ハンドボール 柔道 空手 マウンテンバイク オリエンテーリング 射撃 水泳 卓球 テコンドー テニス バレーボール レスリング (フリースタイル) レスリング (グレコローマン) (21競技)

日本代表選手団・役員

選手	108名 (男74名・女34名)
役員	69名 (男45名・女24名)
団長	全日本ろうあ連盟理事 スポーツ委員会委員長 山根昭治
総監督	全日本ろうあ連盟スポーツ委員会 国際事業部長 栗野達人
総務	全日本ろうあ連盟理事 スポーツ委員会事務局長 倉野直紀
総務付	全日本ろうあ連盟スポーツ委員会 国際事業部付 川俣郁美
	全日本ろうあ連盟スポーツ委員会 啓発担当 古隆喜

「世界一の高みをめざして夢咲かせよう」日本選手団

「デフリンピックへ」という夢に向けて、日々練習に取り組み、ついに日本選手団に選ばれた108名の選手たち。でも、まだ夢は続いています。それは「世界一の高みへ」です。

日本選手団のスローガンは、『世界一の高みをめざして夢咲かせよう』に決定しました。選手たちは日本代表としての誇りを持ち、世界一の高みに到達する夢の実現へ力の限りを尽くします。当委員会及びスタッフや帯同ドクター等も、選手たちの夢が花開くように技術面や医科学面、輸送面で支えています。

どうぞ、ご声援のほどをよろしくお願いいたします。



前大会の女子100mハードル競技で銅メダルを獲得した田井選手



前大会の卓球女子シングルス競技でロシアを下し、金メダル獲得した上田選手



前大会の日本選手団の結団式・壮行会の様子

前大会の第22回夏季デフリンピック ソフィア2013では、日本選手団は金2個、銀10個、銅9個を獲得しました。

今大会では、金5個、銀10個、銅10個の獲得を目標に掲げています。

『世界一の高みをめざして夢咲かせよう』



広がる応援の輪

第23回夏季デフリンピック競技大会サムスン2017日本選手団の公認応援ソングは、ボーカル&手話パフォーマンスグループHANDSIGNと手話パフォーマー三城千咲が歌う「HERO」です。

当委員会が歌詞や手話を監修し、制作協力を行いました。

デフリンピック応援ソング「HERO」
HANDSIGN with 三城千咲 ~Trailer~



たくさんの方々から「応援メッセージ」をいただいています

日本選手団ウェブサイトでは、皆さまからの「応援メッセージ」を募集しています。

在トルコ国日本大使館特命全権大使の岡浩氏をはじめ、たくさんの応援メッセージをいただきました。

皆さまのご声援をはげみに、選手団一同頑張っています！

日本代表の皆様
サムスンの地で是非大いにご奮闘下さい。
日頃の練習の成果を出されるよう祈念しております。
がんばれ！日本！

がんばれ～～。
メダルの数より、順位より、選手の皆さんが思い切り力を出し切り、気持ちよく競技できることを願っています。
怪我には気をつけてくださいね。

日本代表のみなさん、全力を出していい結果になるように応援します！
金メダルを取った報告を待っています！
頑張れ！日本！

日本代表の皆さん
自分満足出来るようにプレー頑張ってくださいね。私たちも応援します。ファイト！日本万歳！

デフリンピックとても楽しみにしています！！
子供たちと一緒に応援しています！！
頑張れ日本！！

デフリンピック日本選手団の抱負

日本選手団 団長 山根 昭治



選手・スタッフ一同、日本代表としての誇りと自覚を持ち、国際的な晴れ舞台でベストパフォーマンスを発揮して参ります。

メダル獲得数もアジアいや世界一になれるよう、選手とスタッフで一丸となって頑張ります。ご声援をよろしくお願いいたします。

日本選手団 監督 栗野 達人



日本代表選手一同、勝つことを目指し4年間厳しく鍛錬しました。パワーアップした技量、知識、忍耐力および、スポーツマンシップや感謝の気持ちを持って世界に挑みます！

過去最大数のメダルを獲得し、今まで支えてきてくださった方々への恩返しができるよう、日本選手団一同、精一杯頑張っています。

日本の皆様の声援が、私たちの力になりますので、応援のほどよろしくお願いいたします。

日本選手団 主将 早瀬 久美



わたしたち選手は、耳が聞こえない人たちの代表というよりも、日本国民を代表して日の丸を背負い、世界を相手に闘っていきます。

また日々の練習を自信に変え、家族や友人の支え、スタッフや会社などからのサポート、そしてデフリンピックを応援してくださる国民みなさまの思いを胸に頂点を目指します。

オリンピックと同じルールで行われる世界のトップアスリートによるこの最高にエキサイティングな夢の舞台に立てることに感謝して。

『今、その時、全力で！』



日本選手団のロゴマーク

大会公式ウェブサイト

<http://www.deaflympics2017.org/en>

日本選手団ウェブサイト

<http://www.jfd.or.jp/sc/samsun2017/>

〒162-0801 東京都新宿区山吹町130 SKビル8F
一般財団法人全日本ろうあ連盟 スポーツ委員会（デフリンピック派遣委員会 事務局）

Tel: 03(3268)8847 Fax: 03(3267)3445

E-MAIL : jfd-sc@jfd.or.jp